



川越市議会議員 無所属

松本きみ

活動報告
令和7年号
春

◇松本きみ公式HP

<https://kimi-matsumoto.com/>



喜びの声 子育て支援の会

Tel : 080-6285-5593

Mail : yorokobi@kimi-matsumoto.com



松本きみプロフィール

- ◆川越市南大塚在住 ◆昭和55年4月13日生 2児の母 ◆文京学院大学卒 在学中に保育士・幼稚園教諭資格を取得
- ◆川越市内の南双葉幼稚園に勤務後、市内の保育園にて主任保育士、園長を務める。
- ◆令和5年4月の川越市議会議員選挙にて当選。現在1期目。川越志政会所属。
【所属】小江戸・こども支援推進協議会アドバイザー／川越きもの日実行委員

令和7年4月発行 第8号

日々の活動



川越市役所南側駐車場で開催された、消防出初式に来賓として出席させていただきました。出初式は消防の重要性を再認識し、地域社会の安全を守るために日々、努力する消防職員の姿を市民の方に見てもらえる重要な機会となっています。



南大塚新春もちつき大会に参加させていただきました。育成会の子どもたちがお餅つきに参加したり、県指定民俗文化財、無形民俗文化財、南大塚餅つき踊りを見させていただいたり、昔ながらの伝統を引き継いでいく行事の1つです。



二十歳の集いに参加させていただきました。前職でみていた子が代表で挨拶をしている姿に感慨深さを感じました。おめでとうございます。



令和6年度川越市スポーツ功労者並びに優秀選手表彰式が今年もやまぶき会館で開催され、文化教育常任委員会として参加させていただきました。おめでとうございます。



さいたま多胎ネット法人主催さいたま市母子保健課協働事業「妊娠期からの多胎ファミリー教室」に参加させていただきました。多胎妊娠についての体験談、相談支援の内容、多胎のベビーグッズの展示、グループディスカッションなどが行われました。川越市でも講演会ができればと思います。



川越市女性団体連絡協議会主催の「女性議員を囲む懇談会」が開催されました。学習部会のテーマは、①子育て・教育問題②交通の改善③超高齢化問題などを取り上げて6つのグループに分かれて懇談がされました。いつも元気な女性団体の方々からパワーをいただきました。

令和7年第1回定例会（3月定例会）報告・・・議案質疑

令和7年度川越市一般会計予算

Q 今後、市長による事業精査で廃止や減額する考えをもっているか。

A 令和7年度予算は予算編成方針に記載しているとおり通年予算としておりますので、現時点におきましては年度途中での事業廃止や減額は考えておりません。
今後につきましては、物価や経済の動向に十分留意しつつ、効果的な事業内容で予算執行ができるよう、来年度予算編成に向けて各事業の抜本的な見直しを進めてまいりたいと考えております。

Q オーバーツーリズム対策事業は、本年度の6月補正予算で本格的に予算化がされた新しい事業であるが、市長は事業の必要性についてどのように考えているか。

A コロナ禍が明けて以降、再び多くの観光客の方々にお越しいただけるようになり、まちの賑わいを取り戻した反面、生活環境への悪影響やまちの快適性の低下が見られるなど、いわゆるオーバーツーリズムと言える問題が発生している状況でございます。
このような中、昨年、観光庁におきましてオーバーツーリズム対策の支援を行う補助事業が実施され、本市におきましても、これに基づき、観光マナー対策をはじめ、観光エリアの分散化、交通問題の解消など、総合的な取組みを推進してきたところでございます。
取組みの中には、段階的に進める必要があるもの、一定期間継続することで効果が発揮されるものも多く、今後も地域の方々のご意見を聴きながら対策を講じ、生活環境の維持・向上を図りつつ、持続可能で快適な観光地を目指していく必要があると考えているところでございます。

< 多胎児支援について >

☆多胎児とは…同時期に一人の母親から生まれた複数の子ども

多胎児支援が必要な主な理由

- 一度に複数の赤ちゃんを育てることになるため、授乳やおむつ替え、寝かしつけなど心身の疲労やストレスが増える。
- 多胎児を連れて外出をするのは非常に大変なため、気軽に外に出られないことで他人との接点が減ったり、多胎児の割合が低く周囲からの理解も得られにくいことから、共感や相談がしにくい^{ため}孤立しやすい。
- 多胎妊娠は早産や低体重児などのリスクが高く、出産後も医療的ケアが必要な場合が多いことや発達の個人差が出やすく、発達支援が必要になる場合もあるなど、**医療的リスクが高くなる傾向にある。**
- 育児に必要なものが倍以上になったり多胎児用の特別な育児用品が必要になるため、**経済的な負担が大きくなる。**

・一般質問をした理由

現在、女性の社会進出、キャリアアップなどで出産が遅れる傾向にあり、その結果、多胎児出産が増加傾向にあるという現実があります。多胎児の妊婦は出産リスクが非常に高い、ハイリスク妊婦とされ、周囲に同じ境遇の人が少ないため、相談相手や理解者が見つかりにくいという厳しい現実があります。多胎児出産の場合、出産後うつ病に陥る確率が70%以上にも上がるとされており、これは、単胎児家庭の約20%と比べて非常に高い数字です。

子育てに奮闘するみなさんが孤立せず、お互いに支え合いながら笑顔で前に進んで子育てができる環境づくりへと取り組んでいきたいと考え、一般質問を行いました。

Q1 多胎妊婦における妊娠健康診査の助成について伺いたい？

A1 国は「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」において、安全な出産のために14回程度の妊婦健康診査の実施を推奨している。

本市においては、すべての妊婦に対して14回の妊婦健康診査の助成を実施しており、単胎妊娠又は多胎妊娠における実施回数の差はない。

しかしながら、多胎妊娠は単胎妊娠よりも妊婦への負担が大きいことから、他の自治体の状況を把握しつつ、妊婦健康診査の実施回数の見直しについて検討したいと考えている。

Q2 多胎児家庭が利用できる市の交通手段や通院・検診にかかる交通費の助成はあるか？

A2 本市では、市内循環バスとして「川越シャトル」を12系統運行するとともに、市中心部を除いた3つの区域ではデマンド型交通「かわまる」を予約制で運行しており、多胎児家庭も含めてどなたでも利用できる。

なお、現在、本市では、多胎児家庭が通院や検診等で利用する交通手段の利用料に対する助成制度はないが、その必要性等について、他団体の実施状況を踏まえ、検討したいと考えている。

Q3 保育園入園基準の多胎児加点について本市の取り組みと他市の状況について伺いたい？

A3 保育所等の入所審査においては、保育所入所基準指数表に基づき利用調整を行っている。まず、兄弟姉妹が同時に新規に入所申請する場合には3点の加点がある。その際、例えば双子が同時に保育所等へ新規に入所申請をする場合にも同様の加点となるが、この加点は多胎児に特化したものではない。

また、保育所等に在園する児童の兄弟姉妹が新規に入所申請する場合にも3点の加点がある。その際、例えば双子に兄又は姉がおり、かつ保育所等に在籍している場合、この双子が同時に保育所等へ新規に入所申請をする場合にも同様の加点となるが、この加点も多胎児に特化したものではない。

なお、多胎児加点に関して、埼玉県内の人口10万人以上の市に照会したところ、21市中10市が加点を実施していることを踏まえ、多胎児加点のあり方について見直しを検討していく。

Q4 多胎児支援について、今後の市の取組を伺いたい？

A4 多胎児家庭は、同時に2人以上の妊娠・出産・育児をすることに伴う、身体的・精神的な負担など、多胎児ならではの困難さに直面する保護者も多いものと認識している。

このため、多胎妊婦に対しては、妊娠届出時から保健師等の専門職が継続的に関わり、多胎の出産・育児について見通しを立て、安心して出産・育児に臨めるような情報提供を行うことが有効であると考えている。

市では、令和7年度から、従来の母子健康手帳に加え、サポートガイドブックと記録ノートからなる「ふたご手帖^{てちょう}」を配布する予定。サポートガイドブックは、多胎妊娠の特徴や出産・育児に関する情報に加え、出産・育児経験者からのメッセージなど、多胎児家庭に役立つアドバイスが記載されている。また、記録ノートには、母親の身体変化が詳しく記録できるとともに、単胎児よりも小さく生まれることの多い双子の成長発達についても、一冊で記録できるといった特色がある。

この「ふたご手帖」の活用により、多胎妊婦やその家庭が出産や育児のイメージが持てるよう相談支援を充実させるとともに、多胎児家庭に必要な情報について、ホームページなどを通じて分かりやすい情報発信に努めていく。

・感想

私たちが普段目にするのは、愛らしい笑顔だけではありません。多胎児出産の背景には、想像を絶する困難と苦悩があり、子どもを授かる喜びと同時に、不安や孤立も伴います。このような現実を踏まえ、多胎児家庭への支援は単なる福祉施策ではなく、子育て支援全体の課題として優先的に取り組むべきだと考えます。今後、女性の社会進出が進み、多胎児出産はさらに増加すると予想されます。多胎児支援の拡充は、未来の子育てを整える上で必要不可欠な課題であると考えます。

※一般質問とは、市民の関心事や市政に対する問題を提起し、市長や市政府の担当者に対して回答を求めること。市民の声を反映させる重要な機会。

令和7年第1回定例会(3月定例会)の情報は、川越市公式ホームページ→川越市議会からご覧いただけます。